

ピーナツ餅「香ばしい」

新内灘名物へ 滑り出し上々

内灘町西荒屋で特産化を目指しているピーナツ餅が好評を得ている。地元地域おこし団体「西荒屋営農促進会」が11月から注文と店頭で本格販売を始めたところ、歳暮用に30箱を購入する町民や小矢部市から買い求める購入者もいて、上々の滑り出しとなっている。キャラクターを制作し、ブランド力の向上を図る促進会代表の川辺俊一さん(71)は「西荒屋から新たな内灘名物を誕生させたい」と意気込む。

西荒屋営農促進会 キャラも制作

ピーナツ餅は、内灘砂丘の畑で採れたピーナツと、西荒屋区の水田で収穫されたもち米を活用し、小粒で

堅めの食感が特徴のピーナツを砕き、蒸したもち米に混ぜて仕上げる。昨年11月から今年2月末まで注文で試験販売したところ、餅の甘みとピーナツの香ばしい風味が好評で、再注文が相次いだ。

本格販売に向け、今年度はピーナツともち米の生産量を前年度の約1.7倍に増やし、ピーナツは300kg、もち米は2トンを収穫し

た。11月から津幡町のJA直売所で販売し、12月からは内灘町役場とサイクリングターミナルで販売と電話・FAXによる注文を受けている。

野々市のデザイナーに促進会のキャラクター制作を依頼し、「まっしろべっぺ」と名付けた女の子の顔を描いたシールを作った。餅を入れる箱に貼ることでブランド力を高める。餅は1箱30個入り3千円で販売し、町役場とサイクリングターミナルでは1袋5個入り500円で取り扱っている。注文販売は31日まで受け付ける。

注文が相次ぎ、毎日午前3時に起きて約40kgの餅をついている川辺さんは「こんなに人気が出ると思わなかった。体が持つかな」とうれしい悲鳴を上げた。



キャラクターのシールを貼った箱に詰めたピーナツ餅 西荒屋営農促進会